

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢に改善が見られるなど、緩やかな回復傾向にありましたが、消費税率引き上げの影響や海外景気の下振れ懸念など、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループは、超高齢社会の進展に伴い医療・介護サービスの需要は拡大するものと捉え、安全性を最優先とし事業規模の拡大に取り組んでまいりました。

そうした中、調剤薬局事業におきましては、本年4月に行われました調剤報酬改定及び薬価改定により、過去にない厳しい事業環境となりました。一方、これまで先行投資を行ってきましたヘルスケア事業におきましては、収益体制が整ってまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高12,969百万円(前年同期比16.9%増)、営業利益661百万円(同6.3%増)、経常利益670百万円(同12.5%増)、四半期純利益は428百万円(同25.2%増)となり、前年同期に比べ増収増益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、新規出店及びM&Aにより三重県2店舗、愛知県2店舗、静岡県1店舗の計5店舗が新たに加わり、店舗総数は92店舗となりました。

売上高は、当期出店に加え、前期(平成26年2月期)に出店した6店舗が寄与したことにより、10,528百万円(前年同期比6.9%増)となりました。利益面では、調剤報酬改定及び薬価改定などの影響により、営業利益は754百万円(同2.1%減)となりました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、本年3月に有限会社三重高齢者福祉会(三重県)、4月に株式会社ハピネライフケア(鳥取県)の全株式を取得しグループ会社化したことにより、居住系介護施設は20施設、700床(前期末9施設、450床)となり、また、訪問介護や通所介護をはじめ多様な介護サービスを提供する事業所が加わりました。

既存施設において入居者数が増加したことに加え、新規取得した子会社が寄与し、売上高は1,767百万円(前年同期比145.3%増)、営業利益は129百万円(同465.4%増)となりました。

(医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場規模が拡大する中で積極的な営業を展開した結果、売上高636百万円(前年同期比30.2%増)、営業利益72百万円(同72.8%増)となりました。(内部売上を含む売上高は885百万円となり、前年同期比で25.9%増加しました。)

(不動産事業)

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高37百万円(前年同期比4.6%増)、営業利益28百万円(同53.2%増)となりました。

投資事業におきましては、有価証券売却益62百万円の計上を含め、効率的な運用成績を収めております。

なお、セグメント間の内部売上高として265百万円を消去するとともに、全社における共通経費として322百万円を計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は21,410百万円となり、前連結会計年度末と比較して3,681百万円増加いたしました。

流動資産の合計は9,272百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,455百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加735百万円、売掛金の増加443百万円、商品の増加154百万円によるものです。

固定資産の合計は12,138百万円となり、前連結会計年度末と比較して2,225百万円増加いたしました。これは主に、建物及び構築物の増加1,062百万円、土地の増加489百万円によるものです。

負債合計は15,288百万円となり、前連結会計年度末と比較して3,272百万円増加いたしました。これは主に、長期借入金(1年内返済予定を含む)の増加2,314百万円、短期借入金の増加168百万円によるものです。

純資産合計は6,121百万円となり、前連結会計年度末と比較して408百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益428百万円によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同現物(以下、「資金」という。)は4,712百万円となり、前連結会計年度末と比較して652百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、530百万円(前年同期比235百万円の減少)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益734百万円、減価償却費260百万円があったものの、売上債権の増加105百万円、たな卸資産の増加121百万円、法人税等の支払324百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、340百万円(前年同期比662百万円の減少)となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入122百万円があったものの、有形固定資産の取得による支出371百万円、事業譲受による支出134百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、463百万円(前年同期比162百万円の増加)となりました。これは主に、短期借入金及び長期借入金の純増加802百万円、社債の償還による支出200百万円、配当金の支払110百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の業績予想につきましては、平成26年4月7日公表の数値から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。